

[普及事項]

成果情報名：セイヨウナシのセイヨウナシハモグリダニ(仮称)に対する石灰硫黄合剤の
休眠期散布の防除効果

研究機関名 果樹試験場 生産技術部
担 当 者 小松美千代・舟山 健

[要約]

セイヨウナシ樹への石灰硫黄合剤の休眠期散布は、セイヨウナシハモグリダニによる生育初期の被害を軽減する。

[キーワード]

セイヨウナシ・セイヨウナシハモグリダニ・石灰硫黄合剤・休眠期散布

[普及対象範囲]

県内のセイヨウナシ栽培地域

[ねらい]

2017年に秋田県横手市のセイヨウナシ園において、葉や新梢に火ぶくれ症状を、果実にサビ症状を引き起こすフシダニ科のセイヨウナシハモグリダニ(仮称)*Eriophyes* sp. 2の発生が確認された。翌年以降は周辺園地や隣接する湯沢市園地でも発生が認められ、被害が増加傾向にある。また、本種による被害は果実の商品価値にも影響するため、防除対策が必要となっている。本種と同科でセイヨウナシを加害するナシノハモグリダニに対しては、休眠期の石灰硫黄合剤の散布が有効とされており、本種に対する石灰硫黄合剤の休眠期散布の防除効果を検証する。

[成果の内容及び特徴]

- 1 セイヨウナシの発芽前に石灰硫黄合剤10倍を散布すると、セイヨウナシハモグリダニによる被害は、5月下旬(生育初期)まで軽減される(図1)。ただし、10月上旬には、無処理区より少ないものの、増加が認められる(図2)。

[成果の活用上の留意点]

- 1 セイヨウナシハモグリダニは葉の火ぶくれ内部に生息し、成虫は体長約0.15mmで淡褐色のうじ虫型である。
- 2 セイヨウナシハモグリダニの越冬場所からの離脱は発芽前より始まり、大部分が展葉期以前に離脱する。展葉期以前より幼葉や花蕾への加害が始まり、果実のサビ症状は生育初期の加害によると推測されるため、石灰硫黄合剤の休眠期散布の有効性は高い。
- 3 石灰硫黄合剤は、作物名「落葉果樹」、適用病害虫名「越冬病害虫」、希釈倍数「7～10倍」、使用時期「発芽前」で農薬登録が有り(2020年1月現在)、セイヨウナシの休眠期に使用が可能である。
- 4 セイヨウナシハモグリダニによる被害は、石灰硫黄合剤を休眠期に散布した場合でも、新梢の生育初期以降に伸長した部位で増加する可能性がある。

[具体的なデータ等]

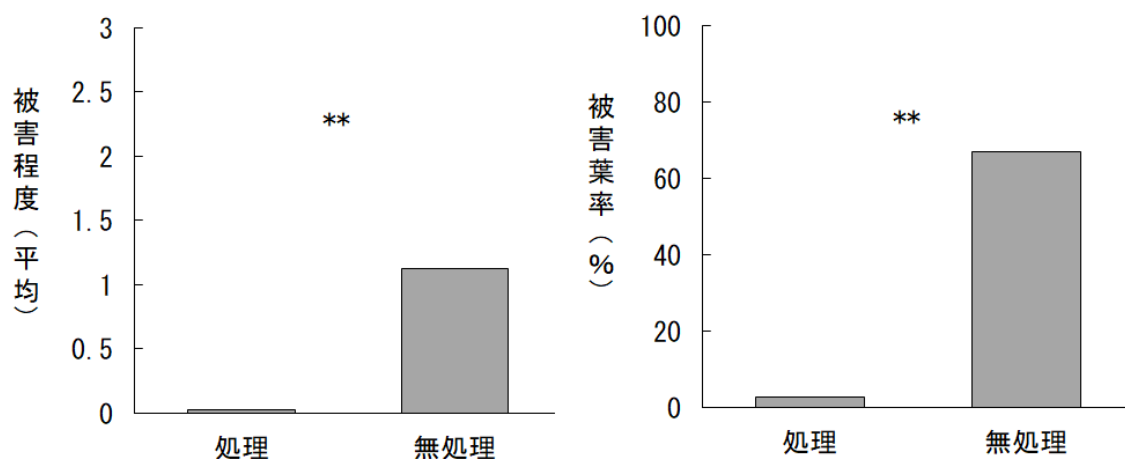


図1 セイヨウナシのセイヨウナシハモグリダニに対する石灰硫黄合剤の休眠期散布による防除効果(2018年5月下旬調査)

各区3樹(樹齢約30年生、立木仕立て)を供試した。処理区には同年4月2日に石灰硫黄合剤10倍を約25L/樹の割合で散布した。同年5月21日に各区60葉そうの全葉の被害程度(被害無しは0、被害面積が葉の面積の1/4未満は1、1/4以上1/2未満は2、1/2以上は3)を調査した。

**は、被害程度ではWilcoxonの順位和検定、被害葉率ではFisherの直接確率検定で有意差あり($p < 0.01$)。

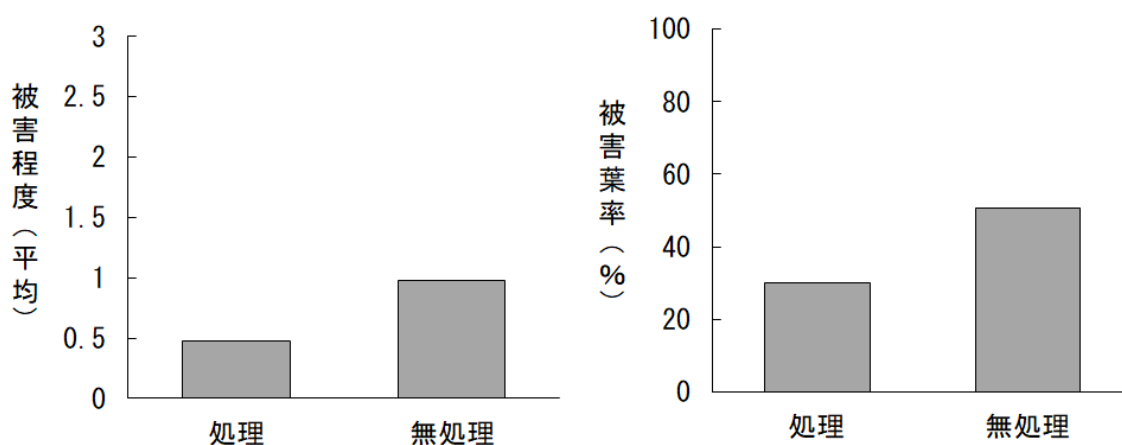


図2 セイヨウナシのセイヨウナシハモグリダニに対する石灰硫黄合剤の休眠期散布による防除効果(2018年10月上旬調査)

処理方法、被害程度、**の説明は図1に同じ。同年10月9日に各区60徒長枝の全葉について調査した。

[その他]

研究課題名：セイヨウナシのセイヨウナシハモグリダニ(仮称)に対する石灰硫黄合剤の休眠期散布の防除効果

研究期間：平成30年度

予算区分：その他

掲載誌等：北日本病害虫研究会報 第70号(2019)